

ガッシュ川の洪水灌漑と人々の営み 「スーダン東部カッサラ州にでかけて」

2011年1月から3月までの期間、カッサラ州基本行政サービス向上による復興支援プロジェクト(詳細計画策定)に参加する機会を得てスーダン国カッサラ州を訪問した。カッサラ州はスーダン東部に位置しており、25の州のひとつ(2011年1月の住民投票で南部スーダンの分離が決定)でその民族・言語構成は多様である。内戦による紛争の時期をへて、2005年の停戦合意後徐々に復興への道を歩み始めている。カッサラ市近郊は温暖な気候と肥沃な土壌でタマネギ、トマト、オクラなどの野菜類、オレンジ、グレープフルーツなどの柑橘類、バナナ、マンゴーのポンプ灌漑による園芸農業がさかんである。また、カッサラは奇岩の景勝地としても有名で国内有数の観光地、新婚旅行の人気の行き先として栄えている。園芸以外の農業生産も地域によりバリエーションに富んでおり、重力灌漑地区における換金作物生産、天水地区におけるウォーターハーベスティング利用、機械化地区における大規模穀作農業、洪水灌漑地区における氾濫原および導水による灌漑農業などがおこなわれている。

基本的に年平均降水量 300~400mm の乾燥地に位置しながらも上述のような多種多様な農業形態が存在しているのはひとえにカッサラ州を南北に貫流するアトバラ川、ガッシュ川の2つの河川に負うところが大きい。アトバラ川はエチオピアを源流としており、下流部でナイル川へと注いでいる。ダム建設(建設計画中のものをふくむ)により灌漑面積が増大し、入植による計画生産体制のもとコットン(綿花)を代表とする換金作物や小麦などが作付されてきている。他方、

ガッシュ川はエチオピア・エリトリアを源流に雨季(6~8月)の増水により1年に1回、2~3ヶ月ほどの水流のある時期をのぞけばカラカラの涸れ川で季節河川となっている。こちらの河川沿いは古くは氾濫原農業として発展したのちポンプ灌漑井戸による先述の園芸農業や導水路の整備によるソルガムやコトンの作つけがおこなわれてきた。

ガッシュ川の洪水は水量を変動させながら毎年繰り返しもたらされてきた。上流から運ばれてきた土壌は適度な透水性・保水性を有しており、栄養分も豊富であり、カッサラでは柑橘や野菜の産地形成がはかられ園芸農業が展開してきた。また洪水の余剰水を導水管理しながら数千ヘクタールにおよぶ広大な洪水灌漑農地が造成されてきた。しかし、洪水の増水はときに容赦なく市街地をおそう。乾季の河川敷に遊ぶ小動物によって掘られた長い地下トンネルをつたって雨季の増水で穴から水が噴きでて市街地を水浸しにしてしまうこともあるという。ときに洪水はコレラ・赤痢などの感染症やサソリやヘビなど人間にとって好ましくない贈物を上流部から運んでくることもある。エジプトがナイル川の賜物であったとされるようにカッサラはガッシュ川の賜物として日々の営みのなかで良い面悪い面をあわせ持ちながら人々の生活の糧を築きあげてきた。このようなユニークな特徴をもつ洪水河川と人々の営みとのかかわりについては一とおりや二とおりの関係では言い尽くされないさまざまなつながりが隠されていることであろう。そうした関係の秘密をさぐっていくことをひそかな楽しみに今後もカッサラ通いをつづけていけたらと考えている。

(2011年4月古賀)



カッサラの奇岩の山トティールを背景にした農作業



カッサラ西郊の農産物市場のにぎわい



乾季で水流のとだえた季節河川のガッシュ川